

うに郷通信

No.93
平成 29 年(2017) 3 月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

第5回さくらまつりのご案内

今年も4月の第1日曜日(2日)に「第5回さくらまつり」を開催します。恒例になりましたが、「宇仁の里ふるさと太鼓」の元気な呼び出し太鼓演奏に引き続き、式典、加西ロマンの里ウォーキングでテレビにも出演した「宇仁っ子ふるさとガイド隊」による名所案内、歴史小説作家伊吹昭先生の講演会、その他、フットサル、あそび広場、グラウンドゴルフ等のイベントも用意しています。

また、食べ物コーナーでは、カレー販売、コーヒーとおでん販売、お茶などの飲み物販売に加え、今年はPTAがフランクフルトを販売します。さらに朝市部会の新鮮で安全安心安価な地元野菜を販売するなど、全てのコーナーが工夫を凝らした内容になっています。ファミリーや近所同士で、花見、買物、抽選会などをお楽しみください。ご参加をお待ちしています。なお飲酒される方などにはシャトルバスを別紙プログラムの内容で運行しますのでご利用ください。(花畑街道部会)



宇仁小ふれあい教室に参加して



2月4日(土)宇仁地区老人クラブの46人が「宇仁小学校ふれあい教室」に参加し、子供たちと心のふれあいを深めました。(現在、加西市内でのふれあい教室開催は本校のみとなりましたが15年間継続しているとの事です。)

内容は、凧づくり、こま回し、あやとり、けん玉、お手玉、将棋、グラウンドゴルフ、料理教室など6つの教室で、手を取り合っただけの楽しい指導に子ども達も大声を出して貴重な体験に喜んでくれました。

私達が小学生の頃は、学校から帰ると毎日の様に友達、家族、地域の人達と交流し楽しんだものですが、現在は時代の流れで1人でも楽しめるものがあるため、ほとんど見ることが無くなり寂しい限りです。

今日のように年齢の異なる集団生活を通して人とのふれあいを大切に、責任感、協調性、自主性、自立性を養うことは大切なことだと思います。幸い宇仁地区の方々、他町の人々が驚かれる程物事に対し熱く熱狂的です。運動会に見られるように、どの子供に対しても頑張った姿には拍手が鳴り止まない熱い光景は何度も見せてもらいました。

少人数ですが、地域の方々の熱い思いに支えられ素直な心優しい人間に成長してくれる事を願いながら楽しんだひとときでした。(宇仁地区老人クラブ会長 本岡 弘)

ほっとトークだより



今年の子育てほっとトークでは、お母さん方に先生になってもらい、得意な事を教えてもらう企画をしています。第1回目(1月24日)は、アロマ教室で、アロマクリームを作りました。子どもから大人までが使える安心素材で、その上柑橘系の香りで癒されます。皆でおしゃべりしながら手を動かして作る事は、いい体験になったのでは…と思います。

3月14日の第2回目には歯磨き教室をします。フッ素をきちんと歯に定着させる歯磨き方法を教えてもらいます。是非親子でご参加ください。

(ふれあい交流広場)

講演会のご案内～47人目の赤穂義士寺坂吉右衛門の生涯～



4月2日(日)の第5回さくらまつりに歴史小説作家の伊吹昭先生を招いて、「赤穂義士吉田忠左衛門と寺坂吉右衛門」と題しての講演会を催します。

忠左衛門は加東郡代として当地を統治した1693年、領主浅野長矩より八王子神社の改築後見人に任命されるなど当地方に多くの史実が残っています。忠左衛門の家来であった吉右衛門は長矩の殿中刃傷事件の後吉良邸討ち入りに忠左衛門と共に参加しますが、討ち入り後47人が泉岳寺に向かう途中大石内蔵助の密命により隊を離れ播州に帰ります。47士の生き証人として残された家族に遺品を届けるなど結末を伝え、46人の同志の慰霊に生涯をかけた寺坂吉右衛門は享年83歳で生涯を終えます。当日は「忠臣蔵」の表に出ない

秘話が聞けるとお思いますので多くの参加をお待ちしています。

(宇仁郷歴史資料館)

スポーツクラブ21の紹介～宇仁山遊会～

スポーツクラブ21宇仁役員の山好き4人が、平成24年8月に後山(宍粟市)に登ったのが発足のきっかけ。平成25年度にスポーツクラブの正式種目に昇格し、現在の会員数は約20人。活動内容は、月1回県内・近県の山に登り、下山後、日帰り湯で汗を流し道の駅等で買い物するなどして1日をのんびり楽しむというもの。今後は、月例登山に加え、年1回は泊を伴う山行も計画したいと考えています。

我が会のモットーは、「無理のない計画で楽しい山登りを！」です。山歩きに興味のある方は気軽に参加してください。

(スポーツクラブ21 宇仁山遊会)



平成28年8月11日 駒の尾山(1281m、岡山県)にて

宇仁郷歴史資料館だより ③-10 近世の宇仁郷

(8)了徳寺(加東・高岡)

開基は、天正13年(1585)現在の小野市王子町。檀家の増加にともない、赤穂藩の統治時代(1645～1701)に浅野家の家臣藤井又助の尽力で、現在の鍛冶屋町了徳寺池付近に山林 21,780 m²を寺屋敷に除地し、移転建立されました。享保9年(1724)、幕府の青野ヶ原開墾事業で了徳寺付近に用水池を築造することになり、寺屋敷は旗本・八木家のはからいで高岡の現在地に建立されたと伝えられています。本尊は阿弥陀仏、宗派は真宗大谷派で、広く檀家を有し赤穂藩浅野家、旗本・八木家と関わりのある由緒ある寺院です。



了徳寺本堂

(9)了徳寺の山門(加東・高岡)

この山門は、本柱の上に冠木を渡し切妻づくりの屋根を乗せた武家屋敷の棟門です。旗本・八木家の代官所「穂積の陣屋」門として存在していましたが、明治4年(1871)の廃藩置県に伴い本寺の楼門として移設されました。かつては、屋根は赤穂藩の定紋入りの瓦で葺かれており、その定紋入り瓦が本寺に保存されています。穂積の陣屋は元禄14年(1701)まで赤穂藩浅野家の加東・加西郡領の奉行所であったことから、それ以前に建立されたと考えられ、300年以上経過している由緒ある山門です。平成2年(1990)この山門は加東市の指定文化財に登録され、平成21年(2009)に補修工事がなされています。



山門(上)と定紋入り瓦(下)



* 山門の由来には、廃藩置県の後、旗本・家原浅野家の陣屋門が移設されたとの説もあります。

開館日 第1・3日曜9時30分～12